

# 文化財通信くまもと

第20号

平成14年3月

熊本県  
教育委員会

## 文化財資料室へようこそ

熊本県教育委員会が行う埋蔵文化財の発掘調査で出土した資料は、すべて文化財資料室に集められます。文化財資料室では、これらの資料の、水洗い・復原・実測・写真撮影等の作業を行い、報告書作成の後、資料の整理保管を行っている施設です。

平成13年4月に名称を文化財収蔵庫から文化財資料室へ変更し、同年7月より展示室を設け、県内の最新資料を展示し一般公開するほか、資料室の作業を見学したり、勾玉づくりや火起こしを体験したりすることができます。今後も、県民の皆様の埋蔵文化財や文化財保護に対する理解が深まるような企画を進めています。

また、中学生の職場体験学習や小中学生の体験学習等も受け入れ、地域社会に対して貢献できる施設を目指します。



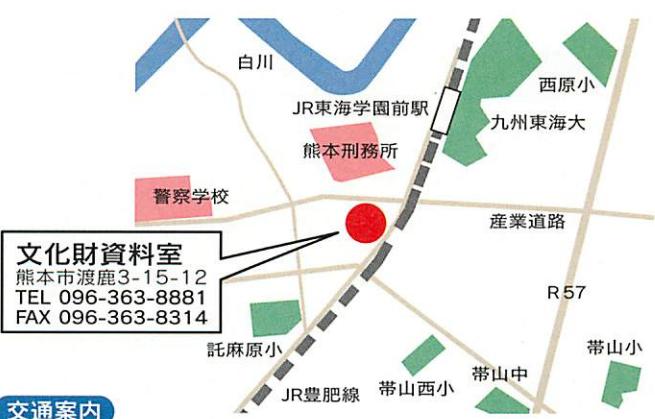
土器復原作業



展示室



ナイストライ(職場体験学習)風景



### 交通案内

市営バス 交通センター発 日赤長嶺団地方面行(保田窪経由)  
保田窪入口バス停より徒歩3分

産交バス 交通センター発 託麻市民センター方面行  
保田窪入口バス停より徒歩3分

## 平成13年度調査の遺跡一覧

遺跡名	所在地	主な時代	主な遺構	主な遺物
地蔵原遺跡	阿蘇郡南小国町地蔵原	弥生	竪穴住居跡、土壙	弥生土器
下扇原遺跡	阿蘇郡阿蘇町三久保	弥生	竪穴住居跡	弥生土器、鉄器、べんがら
小野原遺跡	阿蘇郡阿蘇町狩尾	弥生	(上記と同内容)	
船入遺跡	菊池郡西合志町須屋	中世	墳墓、溝	青磁、土師器、瓦器
外牧遺跡	菊池郡大津町外牧	縄文～弥生	竪穴住居跡	縄文土器、石器
小田遺跡	玉名市上小田	古代・中世	竪穴住居跡、掘立柱建物、溝等	須恵器、土師器、陶磁器
両迫間遺跡	玉名市両迫間	弥生・古墳	溝、井戸、土壙	土師器
玉名平野条里跡	玉名市両迫間	古墳～中世	竪穴住居跡、溝、土壙	土師器
前田遺跡	玉名市大字月田	弥生時代中期・中世	竪穴住居跡、甕棺墓	黒髪式土器、瓦器
新南部遺跡	熊本市渡鹿	古代	溝、炉跡	土師器、須恵器
二本木遺跡	熊本市春日	古代・中世	土壙、井戸、溝	土師器、須恵器、陶磁器
古庭坊遺跡	熊本市大江4丁目	縄文晩期～中世	竪穴住居跡、掘立柱建物	須恵器、土師器、石器
觀行寺遺跡	八代市宮地町觀行寺	古墳後期～中世	溝、井戸、土壙、建物	須恵器、土師器、瓦、青磁
古麓城跡	八代市古麓町能寺	南北朝～戦国時代	城跡、墳墓等	陶磁器、土師器
西片町遺跡女夫木地区	八代市西片町女夫木	弥生後期～古墳前期	住居、周溝墓	弥生土器、土師器
西片町遺跡百田地区	八代市西片町百田	弥生中期～弥生後期	竪穴住居跡	弥生土器
西片町遺跡稻村地区	八代市西片町稻村	古代～中世	掘立柱建物、竪穴住居跡、溝	須恵器、土師器
中片町遺跡	八代市中片町	古代・中世	掘立柱建物跡	土師器、須恵器
島田遺跡	八代市島田町	弥生時代前期	竪穴住居跡	弥生土器
能寺跡・古麓城下遺跡	八代市古麓町能寺	古代・中世・近世	掘立柱建物	土師器、瓦器、陶磁器
小枝遺跡	球磨郡深田村西	鎌倉	溝、土壙、ピット状遺構	青磁、土師器、縄文土器

## 平成13年度に調査した遺跡紹介

今回紹介する遺跡は、平成13年度に行った調査の中で、注目すべき成果が出た遺跡を選びました。ここ数年、県内では大規模な公共事業が多く行われ、埋蔵文化財を大規模に調査する機会が増えています。今後も新たな成果が続々と出てくると思われますので、ご期待ください。

### 地蔵原遺跡～小国郷初の弥生の「ムラ」跡か～

地蔵原遺跡は、阿蘇郡南小国町大字中原に所在します。調査原因是県道拡幅工事に伴うもので、調査面積は約1,000m<sup>2</sup>の小規模な面積ですが、調査の結果、弥生時代の中期～後期にかけての遺構・遺物が出土しました。

この遺跡の特徴の一つは、丹塗土器が多量に出土したということです。丹塗土器は、赤く塗られた土器で、お祭りに使用されたと考えられています。遺跡は水田が見渡せる小高い丘にあることから何かのお祭りをしたのでしょうか。遺跡からは住居も見つかったことから近くに弥生の「ムラ」の存在が考えられます。(山下)



祭祀土壙出土円塗土器

## 上小田宮の前遺跡 ~玉名平野に縄文時代後晩期の生活痕跡~

上小田宮ノ前遺跡は、県道整備事業に伴って玉名市上小田の菊池川右岸で発掘調査を行っています。調査区域は幅約4m×長さ約200mで、縄文時代後晩期から中世の遺物が出土しています。



奈良時代の遺物の出土状況

弥生時代の遺物が多数出土しており、注目される遺物に丹塗土器・小型彷製鏡があります。これらの遺物から、近くにはこの時代の集落が存在したものと考えられます。

縄文時代の層位からは木製品及び土器が出土しており、今後の調査による成果が期待されます。玉名平野部において、縄文時代の人類が生活した痕跡が認められた意義は大きく、今後の玉名平野部での資料発見の契機になるものと思われます。(広田)

## 船入遺跡 ~室町時代の溝に囲まれた館跡~

船入遺跡は、熊本北バイパス建設に伴って菊池郡西合志町大字須屋で調査を行っています。調査面積は約4,000m<sup>2</sup>で、15世紀頃（室町時代）の溝に囲まれた館跡の遺跡です。青磁器片や火鉢やすり鉢などの瓦質土器片、青銅製品等が出土しています。

環濠と平行する形で道路状の遺構が確認されており、その先には隣接して同時期の遺跡といわれている須屋城跡（現在西合志町が調査）があります。中世城といわれている須屋城跡との関連性が今後の調査によって明らかにされていくと思います。(角田)



環濠

## 島田遺跡 ~八代地方初の弥生時代前期の集落跡~

島田遺跡は、九州新幹線建設事業に伴って、八代市島田町で発掘調査されている遺跡です。調査面積は約3,400m<sup>2</sup>で、弥生時代前期と後期の遺構・遺跡が出土しました。



住居跡

遺構としては竪穴式住居が15軒確認され、住居の中から弥生式土器が多数出土しました。また、磨製石斧・紡錘車・石鎌・勾玉・管玉・獸骨なども出土しています。八代地方で弥生時代前期の集落を検出したのは島田遺跡が初めてであり、八代平野における弥生時代の人々の生活を知るうえで貴重な資料といえるでしょう。特に住居跡に隣した土壙から出土した「ねずみ返し」や「木製鋤」などの木器類は圧巻です(野田英)

# ※ 大好評「江田船山国宝展」※

およそ1,500年前の江田船山古墳（菊水町）から掘り出された「銀象嵌銘大刀」などの国宝が、「江田船山国宝展～熊本の技と美の1500年～」として128年ぶりに里帰りしました。

この展覧会では、教科書などにも取り上げられている熊本が誇る文化財が展示されました。県の文化課では、文化財の大切さを県民の皆様に知っていたらしく絶好の機会と考えて、小中学生を対象にした解説パンフレット作り、理解を助ける解説図録（ガイドブック）・解説ボランティア・解説パネル作り、中学2年生の職場体験事業の受け入れなど、展覧会の準備や運営に一生懸命係わりました。おかげさまで、平成13年9月8日から10月8日までの入場者25,425名というこの種の展覧会では例年ない盛況振りでしたが、中でも小中高校生の入場者数6,197名が目をひきました。また、APEC人材養成大臣熊本会合の開催に伴って、外国からの多数のお客様も入場いただきました。この展覧会が平成13年度の一大イベントの一つとして皆様の記憶に残ることは、間違いないでしょう。（木崎）

くくちじょう

## ※ 鞠智城跡調査整備状況 ※

鞠智城跡では現在、城構造の解明のための発掘調査や「歴史公園」化に向けての整備を行っていますが、平成12・13年度にも調査・整備の両面において着々と成果が挙がっております。以下に、その成果を紹介します。

### (調査)

昭和42年度から始まった調査も平成12年度で第22次を迎え、調査は南側の土壘線上に位置する堀切門跡と北側の谷部で検出された貯水池跡の確認調査を行いました。

堀切門跡では主な遺構として門跡に伴う柱穴1基が発見されました。その柱穴は完全な形で残っていましたが、平面プランは一辺80cmの方形と思われ、深さは約1.0mになります。柱の痕跡も残っており、径40cmの柱であったことが分かりました。道の両際に門柱を立てるといった比較的簡易な門が想定されています。

また、貯水池では水汲み場と思われる木組遺構が発見されました。湧水層まで一辺1.0～1.3m程の長方形の穴を掘り、その周りを木材と足場となる石で囲った構造です。鞠智城跡ではこれまで井戸跡が発見されておらず、当時の生活用水の問題を語る上で重要な発見といえます。その他に、池の堰堤跡（堤防状遺構）が発見されました。その堰堤跡を境にその上方に木組遺構、その下方には貯木場跡が見つかり、池の利用目的が異なることが分かりました。これも池の構造を考える上での貴重な手がかりとなる発見といえます。



木組遺構

### (整備)

平成12年度から建物の復元、遊歩道の増設や城跡内の樹木の伐採など古代山城のスケールを体感で



板倉(武器庫)

きるような整備を行っていますが、そのうちの主な成果として「板倉」の復元建物があります。これは5号建物跡（3間×4間の総柱の掘立柱建物跡）の調査成果をもとに、保護盛土をした上に建物跡と全く同じ場所に復元しました。この5号建物跡は正史に記録された『兵庫』（武器庫）の可能性のある建物跡です。

建物構造は調査成果を受けて床は高床式、屋根は茅葺きとし、この他、壁は「板壁の落としはめ方式」による板壁、入口は隣接する建物配置から西向きの妻側としました。

また、平成13年度末にはガイダンス機能を持つ施設「温故創生館」が完成し、見学者に対して、一層充実した体制が図られることになります。（矢野）